

調査研修報告書②(議員用)

報告者：藤原洋二

実施場所：東京都明治大学アカデミーコモン棟3階アカデミーホール（東京都千代田区神田駿河台1-1）	実施日：5月24日から25日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>① 財団法人日本自治創造学会が毎年開催する研究大会において、当学会の特徴である「自治の創造、幅広い事業への取組、社会貢献」に係る研修に参加することにより、昨今の動向や課題についての認識を深めることを目的とする。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>第1日目（5/24）</p> <p>① 講演(1)：DX時代の日本の原動力を考える(東京工業大学長)</p> <p>② 講演(2)：社会インフラ管理の重要性と人材育成(北海道大学客員教授)</p> <p>③ 事例発表(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな議会の挑戦～議員政策条例の推進～(埼玉県議：田村) ・埼玉県議会へ問う「地方議会のあり方」(日本自治創造学会：穂坂) <p>④ 自治体事例発表(2)～DX時代の個性あるまちづくり～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育と音楽とスポーツの個性あるまちづくり(群馬県太田市) ・スマートシティの新たな挑戦(石川県加賀市) ・「ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち」を目指して(岩手県盛岡市) <p>第2日目（5/25）</p> <p>⑤ 講演(1)：地域の活性化と組織の自立連携(財務省大臣官房政策立案総括審議官)</p> <p>⑥ 講演(2)：出生率2.95 人口維持のまちづくり～町全体での子育て～(岡山県奈義町)</p> <p>⑦ パネルディスカッション「テーマ：自治力を高めるには!」は、パネラーがディスカッションされる内容についていけなかったが、大学の教授同士の内容はこんなものですね。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>講演：地域の活性化と組織の自立連携(財務省大臣官房政策立案総括審議官)では、デジタル田園都市国家構想総合戦略の各分野別区としては初めて「まちづくりにスポーツ」を取り入れたメニューによる魅力的な気づくりの例として、広島県では「北広島町のソフトテニスを紹介された。なお、地域の活性化のための金融の視点から地域経済の生産性などの文脈を理解しての人材育成投資や市民ファンドなどの地域活性化ファンドの構築などを検討する手法の紹介があったが、本市の基本になる振興テーマを意識統一されていないことから推進が難しいと思われる。リーダーが4年ごとに変わっていないがテーマを絞り切れていない感があるので、各組織を結集して決定すると何らかのテーマが決まるとと思われる。各課が推進しても統一感が薄れる。</p>	

事例発表：埼玉県議による「議会の挑戦～議員政策条例の推進～」では、これまでに議員政策条例を41本制定された過程などの説明を受けたが、市民の声や必要性の審査、プロジェクトチーム設置、調査・研究・意見聴取・執行部調整・条例原案作成・検察審査、パブリックコメントを経て制定されている。議員の意識改革や情報収集能力向上、意見聴取等の調整力向上がポイントとなるとの説明であったが、「新たな議会の挑戦」としては認められるものの市民の声が聞きたい気がする。

現役リーダー（市長等）による講演や事例発表

・群馬県太田市の清水市長については、「教育・音楽・スポーツの個性あるまちづくり」が推進されている。市長部局が教育振興施策を行うなど独裁的な感じを受けたが、学校現場においては無償化・自校給食など方針がはっきりしている。その他、英語教育・音楽教育・プログラミング・スポーツ学校など多種にわたってチャレンジされているが、ワンマンなリーダー感があり、教育部局まで業務範囲を展開されているのに違和感もある。

・石川県加賀市の宮本市長については、「スマートシティの新たな挑戦」として、まちづくりを推進されている。10万人の人口が現在6万3千人の市でブドウ(ルビーロマン)が有名な観光のまちであった。

現在、AI(人工知能)をはじめとしたイノベーションが進む中で人材育成を重要視し、現在の産業構造を変えようと考え、市民に理解を求めるために地道な努力をしてきた。

NASAと実業高校(プログラミング教育)の交流や国際大会にはJAXAや国内企業(トヨタ)、大学(マサチューセッツ工業大学)も参加していることから、高校生が世界の最先端技術に触れている。

将来的には、産業集積を目指し、遠隔操作やドローンによるレベル4の需要を想定した10cm四方の集落地図を整備している。

市民の要望は、公共交通の確保の要望が多く、カーシェアリングまで踏み込んだ論議をしている。

これまでの取組の成果として、国からも評価を得ているが、国家戦略特区の認定(デジタル田園都市国家構想総合戦略の5カ所)を受け、医療や健康データを集約した健康診断の標準を目指したい。なお、顔認証を活用しマイナンバーカードをからめたまちづくりを目指している。(現在は病院のみ)

将来的には、市民制度 電子市民・仮想市民登録した市民制度も模索しており、海外からの企業を誘致したいと考えている。(セキュリティ関係を克服)

印象的な説明に「小さな自治体が平均的な予算配分をしていたら潰れるので、選択と集中し、人に投資したい。(普遍的な成長戦略)」が印象に残った。是非、訪れてみたくなった。

・岩手県盛岡市の中村副市長については、「世界につながるまちづくり」として、景観と歴史的建造物の保存と調和が「NYタイムズ2023年に行くべき52カ所」に選出された事例を紹介された。自然との調和(山・川)、歴史的景観や文化、伝統の維持をまちづくりの基本として無理なく調和していることが感じられて素晴らしいと感じた。

本市のまちづくりは、歴史や文化の保全が中途半端である期間が長く続いていることから調和感に乏しくうらやましい限りである。長期的保全活動や環境整備が必要であり、新たに「花と緑のガーデン都市づくり」がイメージアップされている。本市も「花と緑」をコンセプトに頑張りたいものである。

・人口5千7百人の過疎の町である岡山県奈義町の「人口維持のまちづくり」では、町全体で子育てを実践して、出生率2.95を達成されている。自衛隊の駐屯地があることから財政的にも人口的にも有利な環境であるが、歴史や文化を生かしたまちづくりを実践されていると感じた。

今年も本市のスタイル「美しく輝く里山共生都市(みんなが好きと実感できる庄原)」とのギャップを少し痛感した。